

試験範囲外

労働と労働力

参考

労働力とは？

= 労働するために支出される、
自分の肉体的・精神的な能力の総体

参考

なんじゃそりゃ？

Q 逆に、労働に不必要な、
肉体的・精神的な能力なんてあるの？

A ないよ。
無意識のうちに心筋を動かすのも
労働に必要な能力だよ。
なにしろ、心臓が動いてなけりゃ
ハウレン草の栽培もなにも
できないからね。

参考

労働力と労働

参考

労働力あつての労働

- 労働は労働力の支出である。

↓ つまり、

- 労働は労働力を前提した結果である。

⇕ しかし、 —

参考

労働あつての労働力(1)： 労働力としての能力の規定

- 人間が持っているこの一般的な能力に、
労働力という特殊的な性格を与えたのは、
労働である。

∴ 何故ならば、人間は：

- 労働ではないような、本能的な生命活動においても、
“肉体的・精神的な能力の総体”を用いているから。
- それどころか、そもそも労働している間にも
本能的な生命活動を行っているから。

- 要するに、人間が持っている能力 (=前提) を
労働の遂行 (=結果) という観点から見たのが
労働力である。

参考

労働あつての労働力(2)： 個人的労働力の発展

- 労働がこの能力=労働力を発展させる：
 - 当該の労働をするということによって (☞熟練労働)
 - ▼ あるいは
 - 別の労働をするということによって (☞複雑労働)
- 例ワープロソフトを使う能力が発達する：
- ワープロソフトを使って文章を書くという労働をすることによって
 - ▼ あるいは
 - ワープロソフトを使って文章を書く前に、マニュアルを読むという労働を行うことによって

参考

労働あつての労働力(3)： 類的能力の発揮

- 社会的労働は、
 - 《個人的な労働力の中にもともとあるが、しかし他者との社会的な協力の中でしか出せないような能力》を発揮させる (☞協業)。
- 例 協力することで、
 - 2人で協力してやると
1人でやるよりも能率が3倍、4倍になったり
 - 自分1人では持ち上げられない岩を持ち上げることができたり

参考

結局なんだってのよ

- 労働力は労働の前提だが、ただの能力を“労働”力にしているのは、結果である労働の方である。
- 要するに、結論：
結果が前提を決めている。

参考